

FGC NEWS



公益財団法人 世界こども財団
FGC—Foundation for Global Children

No.9

October 2016



東日本大震災支援活動

- 北の大地に会いに行こう
- 相馬市のこどもたち
大磯でサッカー交流
- “こどもと震災復興”
国際シンポジウム 2016

熊本地震支援活動

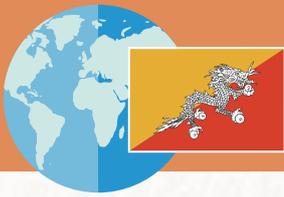
- 被災地への寄付を
末續慎吾選手から熊本市へ

海外支援・交流活動

- ブータン・オリンピック委員会と
スポーツ・コラボレーションを締結
- ミャンマー・前保健省副大臣が来日
現地の孤児院支援へ
- エリトリア・陸上競技連盟より感謝状
- バブ先生 こどもたちへの授業スタート

- 清水新理事長より
就任ごあいさつ





宮澤保夫副理事長、井上一評議員が ブータン王国を訪問

2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向け “Bhutan-Japan Sports Collaboration 2016-2020” を締結



FGC・星槎グループとBOCのスポーツ・
コラボレーション・ポスター



調印式にて、宮澤保夫副会長とジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下・BOC 会長

2016年9月、世界子ども財団の宮澤保夫副理事長、井上一評議員がブータン王国を訪問しました。滞在中、ブータン・オリンピック委員会 (BOC) 会長のジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下をはじめ、関係者と協議を重ね、現地で” Bhutan-Japan Sports Collaboration 2016-2020 “の MoU (覚書) を締結しました。この MoU は、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会、そしてさらに未来へと続くブータンへのスポーツを通じた支援、より深い交流を目的としています。今後は東京五輪の事前キャンプの神奈川県への誘致を実現するため、BOC との連携を強化していきます。



両者がサインした MoU

今回のブータン訪問と MoU 締結の背景には、星槎グループとブータン王国の 30 年以上にわたる友好関係と、それをもとに今年 5 月に王子殿下ほか BOC 代表団を神奈川県への視察に招待した経緯があります。BOC 一行は星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリー

ナ箱根ほかの施設を高く評価され、レセプションパーティー等のイベントでは、日本オリンピック委員会、外務省、JICA、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町といった多くの関係者との親交が生まれました。関係各者からも、神奈川県へのブータンの事前キャンプ誘致や、そこから生まれる交流に大きな期待が、星槎グループ、そして世界子ども財団に寄せられています。今回の MoU 締結はこうした取り組みがひとつ、実を結んだものです。(FGC 石田博彰)



レセプションパーティーには 300 名を越す出席をいただきました
(左から) 宮澤保夫 FGC 副理事長・星槎グループ会長、ジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下・BOC 会長、竹田恒和 日本オリンピック委員会会長、城内実 衆議院議員・前外務副大臣



(右) 小田原市長、箱根町長、大磯町長、神奈川県スポーツ局長との会合後、記者会見にて
(左) 神奈川県の黒岩祐治知事を表敬訪問



星槎箱根キャンパスにて



内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部を訪ね、平田竹男事務局長と



BOC の神奈川県への訪問は、外務省より日本・ブータンの外交樹立 30 周年を記念する事業として認定されました。



伊勢原射撃場ではビームライフルも体験



ミャンマーの前保健省副大臣、 テイン・テイン・タイさんが来日



テイン・テイン・タイさん（星槎中学高等学校にて）

ミャンマーから前保健省副大臣のテイン・テイン・タイさん御一行が来日され、約一週間日本に滞在されました。世界子ども財団、星槎グループとも長年のおつきあいのあるテイン・テインさんは現在、ネピドーにある孤児院・青少年育成センター（サマタウン・ユース・ガーデン）を支援する活動をされています。

同センターの副校長先生とともに、星槎グループの組織や、日本の児童養護施設や乳児院の運営について学び、ミャンマーの施設運営に生かすために来日されました。

社会福祉法人ゆりかご園様（神奈川県小田原市）、社会福祉法人東京恵明学園様（東京都青梅市）のご協

力をいただき、施設見学をさせていただきました。また星槎グループ本部、星槎中学高等学校、青葉台幼稚園・保育園、星槎箱根キャンパスを訪問しました。星槎中学高等学校ではテイン・テインさん御一行のウェルカムセレモニーが開催され、青葉台幼稚園では同園の50周年式典に出席されました。

日本の施設運営の方法やこどもたちへの安全や健康、そして豊かな心のためのケアに大変感心され、学んだことをミャンマーのこどもたちのために必ず生かしたいとおっしゃっていました。

世界子ども財団でも今後、教育、医療、スポーツそして農業といった分野で、ミャンマーの施設との連携・協力を検討していきます。（FGC 石井洋祐）



星槎グループ本部にて



（上）ゆりかご園様、（下）東京恵明学園様
日本の施設運営の特色についてご説明いただきました



熱心に施設を見学し、こどもたちのための施設の取り組みを学びます





海外支援・交流活動 エリトリア



日体大グラウンドで宮澤保夫副理事長、井上一評議員をはじめとするエリトリア・サポーターと

エリトリア陸上競技連盟より感謝状が届きました。この背景にはFGC・星槎グループが行っている支援が目に見えるかたちで実を結びつつあるという嬉しい事実があります。7月19日から24日までポーランドで開催された「U20世界陸上競技選手権」でエリトリアは銀メダル2個（男子10000メートル、男子3000メートル障害）を獲得しました。加えて7位入賞者も2名出しました。彼らは、FGC・星槎グループが支援し日本で日本陸連・実業団共催の合宿や競技会への出場を経験した選手たちです。そこでの体験が、もともと持っていた素質を大きく伸ばし、世界選手権での飛躍につながったのです。彼らは皆若手のホープで、エリトリア陸連も2020年の東京オリンピックを見据えて集中的に強化したい選手ばかりです。その意味でFGC・星槎グループの果たしている役割は非常に大きいと云えます。また、彼らはスポーツを通じて将来を切り拓こうとする多くの子どもたちの希望でもあります。国連統計でも世界の最貧国の一つに数えられているエリトリアでは子どもたちの置かれた状況も日本とは全く異なります。彼らは、押しつぶされかねないような過酷な家庭的、社会的状況にさらされているのです。そのような子どもたちがスポーツを通じて将来を描けるようにな

る、少なくともその希望を持てるようになるのは極めて大切なことです。FGC・星槎グループの活動は、そのような子どもたちに一人でも多く、夢や希望を与えることにつながっているのです。



エリトリア陸上競技連盟からの感謝状

また、エリトリアの選手たちは、来日する度に2020年の事前キャンプ協定を締結している自治体（神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町）を訪問し、草の根の交流にも努めています。具体的には、幼稚園・保育園を訪ねて園児たちと一緒に追いかけっこをしたり、陸上クラブの練習に参加したりしています。子どもたちは世界トップクラスの選手を目の当たりにし、とても興奮するのはもちろんですが、それを機会にこれまで身近ではなかったアフリカのエリトリアという国への興味を高めていました。また、家に帰ってその日の出来事を家族に話すことで、エリトリアとの距離が縮まり、地域全体でエリトリア支援の輪が盛り上がってくるのが期待されます。

今後とも皆様のご支援をよろしくお願い致します。
(FGC 小泉 博)



生徒とリレーを楽しむモゴス選手
於：芦子小学校（小田原市）



日体大記録会に参加するエリトリア選手



生徒たちに囲まれるモゴス選手
於：芦子小学校（小田原市）



サイン色紙を贈呈
於：下中幼稚園（小田原市）



スマナ・バルア先生から日本のこどもたちへ 特別授業「73億分の1 わたしにできること」

「バブさん」ことスマナ・バルア先生は、Bangladesh出身の医師・医学博士で、WHO（世界保健機関）のハンセン病対策プログラムチームリーダーを務めるなど、世界中で活躍されてきた方です。かつて日本で学び働いた経験から日本語も堪能なバブ先生。世界こども財団、星槎グループとも長年の親交があり、世界こども財団が支援活動をしているBangladeshのアグラサーラは、バブ先生のご出身地でもあります。

昨年WHOを退官し、「これからの世界を担うこどもたち、若い世代のための活動をしたい」という思いから、星槎大学の特任教授に就任、世界こども財団を通じて年に数回来日し、中学生・高校生に向けた講義を行うことになり、まずは星槎グループの学校を中心にこれまで星槎中学高等学校、星槎国際高等学校立川学習センター、郡山学習センター、また大学等でも実施してきました。

講義はアジア各地の農村など、厳しい環境のなかで生活する人々のために医療活動をしてきたバブ先生の経験を聞き、そこから「自分たちには何ができるだろう」ということを考えるワークショップへと発展します。タイトルにある「73億」は、今も急速に増え続けている世界の人口を示しています。そのなかのひとりとして、わたしたちにいったいどんなことができるのか？ バブ先生は「すぐに始められること、たとえば家庭のなかでできることをすることが、国際協力につながる」と話します。そのお話を聞いて、こどもたちはグループごとに身近なできることを考え、話し合います。



スマナ・バルア先生

こどもたちにとって、世界で活躍してきた方のお話を日本語で聞ける、自分の考えについて直接話し合えることができる機会はとても貴重で、講義の後半にはいつも活発な質問や意見が交わされています。

そしてこの講義の大きな特徴は、一度きりでは終わらない、ということです。アイデアを考えたら、次はそれを実践してみる。やってみてどうだったかを、みんなで共有していく。そのため、バブ先生は今後も年に数回、日本を訪れ、講義を続けていきます。今回は11月12日（土）、13日（日）に開催されるSEISA Africa-Asia Bridge 2016に合わせて来日し、参加する予定です。（FGC 石井洋祐）



みんなで考える「わたしにできること」(左：星槎国際高等学校立川学習センター 右：星槎中学校での講義)

北の大地に会いに行こう 2016 夏～帯広の夏休み 5年目を迎えた「北の大地に会いに行こう」

東日本大震災で被災した福島県相馬市のこどもたちを夏休みに北海道に招待する「北の大地に会いに行こう」を7月29日から8月4日まで行い、小学3年生から6年生の22人が帯広を訪れました。震災後、屋外での遊びに制約のある被災地のこどもたちに、北海道の大自然のなかで、存分に走り回り、身体を使って活動して楽しんでもらうために始まったプログラムも5年目を迎えました。

帯広市校外の牧場にあるカウベルハウスに宿泊して、野外活動を中心に十勝発祥のパークゴルフや、搾乳体験、帯広名物の豚丼づくりなど、十勝の場所文化を体験しました。

こどもたちに人気のあったのは川辺の体験でした。あいにく前日までの雨で増水したため、ポディラフティングはできませんでしたが、帯広川伏古地区こどもの水辺協議会のみなさんが見守るなか、川に入ってドジョウやザリガニを捕り、水棲昆虫などを観察しました。また、帯広畜産大学フィールド科学センターでは相馬市出身の学生さんの助言で、搾乳を体験しました。「おっぱいが温かい」、「やわらか〜い」など、こどもたちは生命のつながりのなかに生きていることを体感できました。（星槎国際高等学校 高橋知行）

さまざまな体験活動を通じて多くの関わり合いが生まれ、参加した小学生だけでなく、ボランティアで参加した帯広キャンパスの高校生、地域の方々とも世代を超えたつながりができました。みんなで協力しながら何かをする体験は、お互いの気持を考える心を育み、共生社会の礎となり、こどもたちの将来にとって貴重な財産になることなのでしょう。

こどもたちの笑顔、多少の雨をものともしないエネルギーは、関わった人々にも笑顔と元気をもたらしました。被災地のこどもたちが、日常の困難を抱えながらも、仲間を大切に、感謝の心を忘れずに、健やかに成長することを心から願っております。

こどもたちの感想より

私は二度目の帯広コースに参加しました。牛の乳しぼり体験は、初めてでした。とても乳がやわらかくて、ずっとさわっていたい感触でした。川遊びは、去年より水が深く、あまり魚がとれずに、虫ばかりでした。また、チャンスがあったら参加したいです。ありがとうございました。（5年生）



サッカー交流支援 2016 夏～福島県相馬市のこどもたちを星槎湘南大磯キャンパスに招待



福島県相双地区のこどもたちへのサッカーを通じた支援も6年目となりました。今年も8月は相双トレセンのこどもたち31名、保護者24名、監督・コーチ7名を大磯キャンパスへ招待し、1泊2日のプログラムを実施しました。1日目は、「星槎こゆるぎカップ」を開催。茅ヶ崎トレセン、津久井FC、OSA サッカースクールが参加し、計8チームで予選リーグ・決勝トーナメントを行いました。優勝、準優勝は茅ヶ崎トレセンAチーム、Bチーム、相双トレセンAチームが第3位となりました。2日目には鎌倉トレセン、平塚旭少年サッカークラブが参加して練習試合を行いました。

今年も東京大学から学生・卒業生5名のボランティアが参加してくれました。試合の審判・スタッフだけでなく、夜には勉強会をしたり、一緒に遊んだりとこどもたちに大人気でした。また、恒例となっている保護者の方へのヨガ教室も開催しました。

2日間とも炎天下の中、元気いっぱいの子どもたちにこちら元気をもらいました。この取り組みが、ただサッカーをするだけではなく、サッカーを通じて新しい仲間をつくるきっかけになってほしいと願っています。次回は11月、相馬市で実施します。(FGC 石井洋祐)

参加したこどもたちの感想から

- 今回はじめて来てすごく楽しかったです。いろいろな人と友達になれたので良かったです。また来たいです。
- 星槎こゆるぎカップ2016の相手が強かったけど、自分たちも練習の成果を発揮して3位になれてよかった。

保護者の感想から

- 子どもたちに様々な体験を通して希望を持ってサッカーを続けてほしいです。これからもつなごうと大切にしていきたいです。スタッフの方たちに感謝申し上げます。ありがとうございました。東大のみなさん、卒業しても関わっている方たちの姿はすばしかったです。
- サッカー交流会に参加している子どもたちがひとまわりおおきくなれたような気がします。とてもよかったです。

“こどもと震災復興” 国際シンポジウム2016が開催されました



ランチョンセミナーでは、来場者に世界こども財団の活動を紹介

2016年5月7日・8日の二日間、福島県相馬市で震災復興の取り組みと在り方を考え、世界に向け発信するシンポジウムが開催されました。相馬地方広域市町村会（南相馬市、飯舘村、相馬市、新地町）が主催し、全国、そして海外から合わせて1,300人以上の参加がありました。

世界こども財団と星槎グループでは震災直後から支援活動を開始し、「教育環境支援班」より教員やスクールカウンセラー派遣、「医療支援班」での放射線説明会や健康診断等、さまざまな支援活動を継続し、6

年目に入っています。今回のシンポジウムでは世界こども財団が後援を行ったほか、医療支援班の坪倉正治医師（南相馬市立総合病院内科医）が実行委員会の事務局長をつとめ、「相馬市・南相馬市における被ばく量の経過と教育としての放射線」と題し報告を行いました。星槎名古屋中学校の安部雅昭校長は、相馬市、星槎グループ、東京大学医科学研究所の協力で結成した相馬フォロワーチームでの5年間にわたるこどもたちの心のケアのための活動を「フォロワーチームの活動～こどもの心に寄り添う～」と題して報告しました。

また海外からのゲストを含めシンポジウム出席者に対し「復興ツアー」も実施され、東日本大震災の甚大な被害とその痕跡だけでなく、困難な状況のなかでも復興へ向けて歩みを進める地域の取り組みを広く知っていただくことができました。

(FGC 石井洋祐)



復興ツアーで説明する坪倉正治医師（相馬市の復興住宅）



安部雅昭校長の講演



相馬市防災備蓄倉庫「相馬兵糧蔵」

みなさまからのご寄付を 末續慎吾選手から熊本市へ

4月に発生した熊本地震は強い揺れが長期間にわたり連続し、甚大な被害をもたらしました。FGCではこの震災発生直後から、星槎グループと協力し支援を広く呼びかけました。その結果、全国に展開する星槎の幼稚園、保育園、中学校、高等学校、大学そして連携校の生徒・保護者・職員など多数の皆様からご厚志が寄せられました。なかにはFGC・星槎グループがスポーツを通じて支援するエリトリア国（アフリカ）のオリンピック、ヤレド・アスメロン選手（北京大会マラソン8位、ロンドン大会マラソン19位）からも

望外のご寄付をいただきました。世界でも最貧国の一つと言われるエリトリアでの貨幣価値を考える時、ヤレド選手からの寄付は現地平均年収を優に超えるものであり、FGC・星槎グループによるこれまでの支援により築かれた同国との絆が如何に素晴らしいものであるかを改めて実感いたしました。

いただきましたご寄付は熊本出身の陸上オリピアンであり、星槎大学特任准教授である末續慎吾選手から、7月1日熊本市長にお渡ししております。

皆様からの温かいご支援に改めてお礼申し上げます。
(FGC 小泉 博)



宮澤保夫副会長より寄付金を末續慎吾選手へ



大磯町で住民登録カードを受けるヤレド選手

**7月1日 わくわく親善大使・末續慎吾さんより
表敬訪問を受けました!**

熊本市わくわく親善大使で、陸上選手の末續慎吾さんより、表敬訪問を受けました。末續さんは、熊本市出身で、北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリスト、200mで日本記録を持つ、日本屈指の陸上選手です。末續さんは、現在、神奈川県にある星槎大学で特任准教授を務めており、大学を運営する星槎グループ内の職員や学生に支援を呼びかけ、集まった寄付金を本市に届けに来られました。

地震の影響で出場予定だった競技会が延期になった末續さん。大西市長は、「熊本の復興には、末續さんのトレーニングのような地道な積み重ねが必要。末續さんの活躍が、市民にとっても励みになる」と感謝しました。



熊本市の市政だよりも紹介していただきました
(8月号 27ページ)

ヤレド選手は、星槎グループの理念に共鳴し、昨年からは星槎AC（アスレチック・クラブ）に正式に所属しています。日本在留資格も取得しており、神奈川県大磯町に住民登録もしています。

震災発生直後、このヤレド選手から、状況を心配するメールが宮澤保夫副理事長宛に入りました。「日本での地震についてニュースで拝見し、とても心配しております。皆様が安全であられることを願っております」との気遣いをいただくとともに、すぐに「寄付をさせていただきます。十分とは思いませんが、互いに助け合えば、何かしらのお役に立てると思っております」との申出を受けました。まさに、FGC・星槎の理念を共有する仲間です。

ヤレド選手は、世界で活躍する一方、日本のマラソン大会にも出場しますので、私たちの「仲間」として応援をお願い致します。

2016年7月12日、世界こども財団の臨時理事会・評議員会が開催され、
江口研二前理事長の後任として清水竜一新理事長が就任しました。

新理事長からの メッセージ

理事長 清水 竜一



こどもたちがしっかり育たなければ、夢のある未来は創れません。しかし、世の中にはこどもたちを安心して育てるために、支援の必要がある地域がたくさんあります。特に発展途上国と言われる国のこどもたちは、食料不足や衛生面の問題により、満足に生活や成長をすることができません。また、医療支援が行き届かない地域では、こどもたちが命の危機にさらされています。

私たちは、教育や医療を中心とした活動を通じて、こどもたちが健やかに育つ機会を少しでも作ろうとしています。

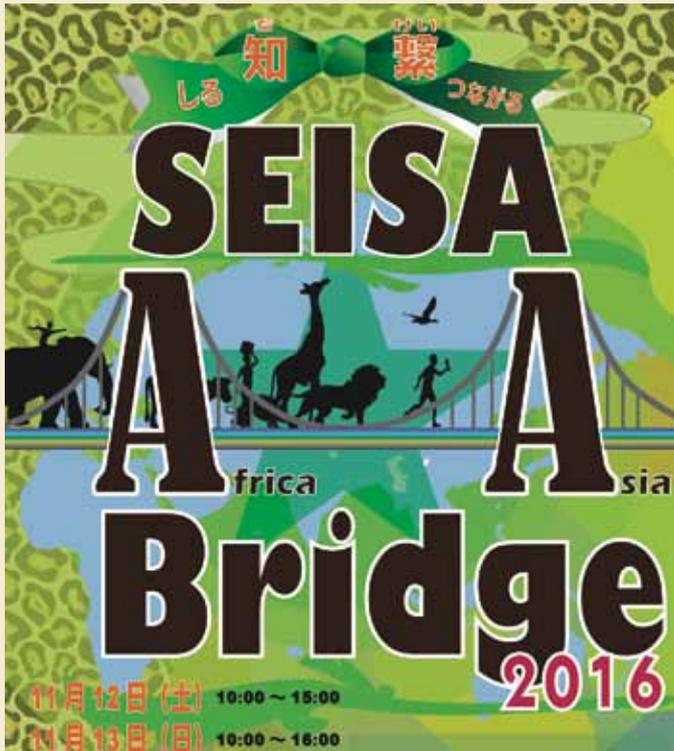
こどもは世界の宝物です。こどもたちが、将来に夢と希望を持ち、自分の可能性に挑戦できる機会をたくさん作るための支援が必要です。

未来を創るこどもたちのために、支援の輪を広げましょう。

2016年7月 役員改選に伴い、新理事長・役員が決まりました

理事長	清水 竜一	日総工産株式会社 代表取締役社長
副理事長	宮澤 保夫	星槎グループ 会長
専務理事	土屋 恵三郎	星槎グループ スポーツ振興室長
理事	土屋 了介	地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 理事長
理事	上田 真理	NPO 法人健康医療開発機構 常任幹事
監事	久保 光雄	みらいコンサルティング株式会社 代表取締役
監事	堤 淳一	丸の内中央法律事務所 共同代表
評議員	宮澤 幸子	学校法人国際学園 理事
評議員	色平 哲郎	佐久総合病院 地域医療部 地域ケア科医長
評議員	加藤 登紀子	歌手
評議員	木内 孝	株式会社イースクエア 代表取締役会長
評議員	リップ 雅映子	株式会社 SUI Associates 代表取締役
評議員	高橋 謙	ベーカー&マッケンジー法律事務所 国際弁護士
評議員	井上 一	学校法人国際学園 理事長

SEISA Africa・Asia Bridge 2016を開催します!



日時

2016年11月12日(土)・13日(日)

場所

星槎中学高等学校 (横浜市旭区)
〒241-0801 横浜市旭区若葉台 4-35-1

主催

公益財団法人 世界こども財団
学校法人 国際学園
SEISA Africa・Asia Bridge 2016 実行委員会

昨年、アフリカから17カ国が参加し、大好評をいただいたSAABが、今年はさらに大きく、アジアの国々も加え、2日間にわたって開催されます。アフリカとアジアの架け橋となるイベント、ご期待ください!

【お問合せ】世界こども財団 事務局 (下記)

2016年2月～2016年8月「寄付モノ・寄付コラボ商品」の報告

寄付モノ	(円)	寄付コラボ商品	(円)
本	164,746	写真集 大磯の蝶 売上より	100
はがき (2,016 枚)	100,800	茶綿手ぬぐい販売 収支差額より	3,000
カード類 (テレカ・図書カード・各種金券等)	4,287	自動販売機 (メーカー 19 社) 売上より	1,217,855
合計	269,833	合計	1,220,955

全国の皆様のご厚志でこんなに寄付が集まりました。心より御礼申し上げます。

(2016年8月末)

ご協力いただいている企業・団体様 (順不同) 2016年2月～2016年8月

●アマチュア無線関係の皆様 ●(株)トキコ・プランニング ●(株)矢部プロカッティング ●(株)ルミネ ●(株)ルミネクリエイティブ ●(株)全日警横浜支社 ●コグメド・ジャパン(株) ●(株)ユミーホールディングス ●ACCJ (米国商工会議所日本事務所) ●神奈川県立がんセンター ●道東基礎工業(株) ●堤設計 ●東京大学医科学研究所 ●フルサワ印刷(株) ●道都大学 ●ブルデンシャル生命保険(株) ●全日本セキュリティー神奈川(株) ●公益社団法人大磯町観光協会 ●アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株) ●(株)スペースクリエイター ●大磯町グラウンド・ゴルフ協会 ●(株)興学社 ●シーフォー(株) ●(社)日本ミヤマー協会 ●国際ソロプチミスト二宮 ●(株)DOE ●教育出版(株) ●(株)バリューブックス ●(株)湘南ウイル ●(株)ダイドードリンコ ●西武商事(株) ●コーシンサントリーピバレッジ ●(株)八洋府中営業所 ●ココ・コーライーストジャパン(株) ●ココ・コーラウエスト(株) ●北海道ココ・コーラボトリング(株) ●東京キリンビバレッジサービス(株) ●北海道キリンビバレッジサービス(株) ●キリンビバレッジバリューベンダー(株) ●北海道ペンディング(株) ●(株)ベネフレックス ●ユニヴァーサル商事(株) ●(有)安田コーポレーション ●大蔵屋商事(株) ●FV イーストジャパン ●合同会社 SV 北陸 ●国際デュアルビジネス専門学校 ●ヴェリダブル事務所 ●総合受験予備校ツルセミ ●神奈川県庁 ●大磯ロータリークラブ ●大磯町役場 ●VAW 栄光ハイスクール ●(株)横浜リテラ

その他、個人、企業の皆さまから多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

表紙の写真

上から ●宮澤保夫副理事長とジゲル・ウゲン・ワンチュク王子殿下・ブータンオリンピック委員会会長 ●ミャンマーの前保健省副大臣テイン・テイン・タイさんと
●園児たちと鬼ごっこを楽しむエリトリアのテクリット選手 (小田原市 下中幼稚園) ●「北の大地に会いに行こう」お世話になった牛と記念撮影 (帯広市)
●サッカー交流支援 相馬市のこどもたち



2016年10月発行

公益財団法人 世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)

TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp

ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索!

印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

